

「噛む」「飲み込む」等の口腔機能の維持・向上の推進について ～小児期から高齢期まで切れ目のない支援について～

検討のポイント

本県においては、「健康づくり推進実施計画」に基づき、各ライフステージ別に歯科口腔保健対策を推進してきた結果、むし歯の有病率は年々減少しており、一定の効果が見られています。

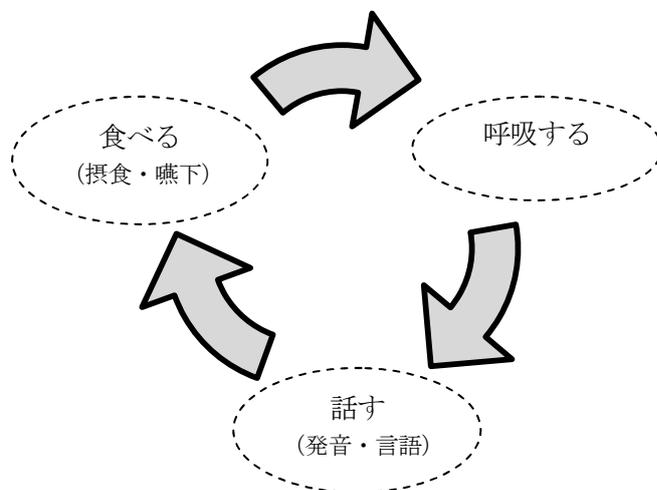
一方で、食品の軟食化が進み、高齢者のみならず、若者においても「噛む力」「飲み込む力」の低下という新たな健康課題も生じています。

今後、食育の観点のみならず、歯科口腔保健の推進においても、各ライフステージに応じた口腔機能に着目した歯科保健サービスが重要です。

小児期においては、「歯・口腔機能の発達状態に応じた支援」、成人期においては、「食べる速さ等の食べ方に着目した支援」、高齢期においては「口腔機能の維持・向上等の支援や口腔機能の低下による誤嚥・窒息の防止をはじめとした支援」が重要と考えます。

【口腔機能がかかわる3つの身体機能】

口腔に関連する「食べる」「話す」「呼吸する」という3つの身体機能には、口腔機能が大きく関わっています。それぞれの機能は、口・鼻・喉の協調運動で成り立っています。いずれかが、動かなくなれば、スムーズに話したり、安全に食べることはできなくなります。



【協議事項】

各関係団体より、各ライフステージに応じた「噛む・飲み込む等の口腔機能の維持・向上の推進について」を検討するために、下記のことについてご意見を賜りたいと思います。

- 1 「噛む」「飲み込む」等の口腔機能の現状と課題
(現場で感じている問題点等)
- 2 県の施策や各関係団体における口腔機能の維持・向上に向けた取組